



大阪府PTA協議会

第19回 広報紙コンクール表彰式

広報紙づくり講習会

日時：令和5年5月13日（土）

13:45～16:30

会場：大阪市立難波市民学習センター

講 堂

◆◆ 次 第 ◆◆

1. 開会あいさつ

2. 広報紙コンクール表彰式

(1) 表 彰

(2) 講 評

大阪府PTA協議会 広報紙コンクール選定委員

ジャーナリスト 細見 三英子

3. 広報紙づくり講習会

大阪府PTA協議会 広報紙アドバイザー

立石 隆則

《ゲスト》

泉大津市立穴師小学校PTA

令和3年度広報委員長・令和4年度広報委員

高島 直子 様

4. 閉会あいさつ

## 令和4年度広報紙コンクール 審査を担当して

ジャーナリスト 細見 三英子

「COVIT-19」から3年が過ぎ、マスク着用は個人判断となった今春、広報紙コンクールへの応募も順調に回復しているようで、喜ばしいことです。また、私たち自身も多くのこと学んだ気がします。再び新しい気持ちで、広報紙に向きあいたいと思います。

### 【幼稚園の部】

どの紙面にも、マスクをはずして、子どもたちの笑顔がはじけていて、癒されました。ふたたびの笑顔を支えてくださった方々の苦労を思いました。

### 【小学校の部】

ある編集委員は「わたしは、あえて、ゆる~いのもいいよ、で行きます」と宣言したり、「やっぱり手書きで」仕上げた力作もありました。そうなのです、それぞれの個性でやればいい。それこそが広報紙の魅力です。

さて、多くの学校が、新学期・春の先生紹介を企画しました。「先生の好きな言葉は?」「訪ねたい外国は?」など、先生の素顔を知りたい質問が多くありました。でも、もう一步、つっこんでほしかったなあ。なぜ、この言葉が(外国が)好きになったのか、どういう意味ですか、へええ、なんだ、という交流が、この後にそれぞれに展開するのも楽しいですから。

卒業する6年生に、夢を尋ねる企画も楽しいものです。夢を自筆で書いてもらうもの、写真付きのもの、印字してそろえたものなど、処理の仕方はいろいろでしたが、中に、「学校図書の司書になる」というのを見つけました。子どもたちが真剣に答え、それらをていねいに美しくまとめた紙面でした。いい記念になるのではないか。

## 【中学校の部】

「カベコワを目標にしよう」という教頭先生のあいさつが目に留まりました。ほほうと思って読んでいくと、カベとは壁、それを壊そうというのです。そして、その壁とは、学年とか男女とか、私たちを無意識にしばっている意識のこと。カベコワを率先して呼びかける教頭先生のおられる学校を想像して、ちょっと愉快になりました。

「fly high!」、高く飛べとかっこいい見出して生徒たちを鼓舞した記事もありました。「何か変わった気がする」をテーマに、生徒たちの意見を聞いたものですが、訴えかけるコピーが生徒たちの心の中で何かしら化学反応を起こしたのかもしれない。読み応えがありました。

生徒にアンケートを実施した学校もありました。中でも「学校で好きな場所は?」と尋ねた結果は、なんと、一位は「ベランダ」。へえ、そなうなんだ、青春してるんだな、などと、ちょっとうらやましかったです。

## 【市町村 PTA 協議会の部】

いずれも地域の学校を親しみやすく紹介しています。中には、市教育長もインタビューに登場して、話が盛り上がっていました。確かに、子どもたちは地域で多くのことを学びますから。

## 【WEBの部】

初の試みです。作品はスライドつくりに似ていますね。一つの物語に沿って濃密に作られ、高度なテクニックを感じます。全員参加の広報紙、いわば幕の内弁当の魅力とは、少し違う仕上がりですね。

## 入賞団体の 講評

広報紙アドバイザー 立石 隆則

《印刷部門 幼稚園の部》

金賞「たんぽぽ」 豊能町立ひかり幼稚園 PTA

### 手作り感と温かみ 前例に捉われない広報紙づくり

園内の様子が手に取るようにわかるなどをコンセプトに、圧倒されるばかりのたくさんの写真で構成されています。しかし紙面がアルバム化することなく、しっかりとキャプションや吹き出しが理解を助けています。訴求力も素晴らしいです。シャッターチャンスを逃さない計画的な取材が効いています。パステル調の柔らかい雰囲気に隠れていますが、編集方針は明確です。PTAの輪を広げ次年度への引継ぎを意識した紙面もあります。コミュニケーションツールを利用した参加型のPTA活動を促す会長のアピールが積極的で好印象です。「こんな今年度のひかり応援団、みなさんももちろん団員です。この秋より次年度の役員募集がはじまります。バトンを受け取ってくださる方、ご一緒にひかり幼稚園を盛り上げていきましょう!」。手作りの温かみを感じさせるグラフィックで積極的なコミュニケーションに成功しています。

銀賞「にこにこ新聞」 認定こども園 豊能町立ふたば幼稚園 PTA

### カマキリの「カマのすけ」が登場

フロントページの題号の下に「ふたば縁から繋がろう」の惹句(PTAスローガン)。とっても効果的だと感じました。行事のスナップにちょいちょい写りこんでくるカマキリの「カマのすけ」—空想の世界やお話のイメージを膨らませて自然と出会い、命の大切さを知って、創造力や実行力を育んでいく子どもたちといつも一緒にいます。「カマのすけ」からは何度も子どもたちにお手紙が届いていたようです。園のテーマ「カマキリ」をモチーフにPTA活動でも豊能町の自然を生かした昆虫を取り入れた取り組みが展開されています。PTA活動では、サポートのみなさんや自治会の取り組みへの感謝を基礎に「ささやかな活動もみんなが力を合わせることで大きな力になる」を体現してもらいました。本紙も活動を通じてたくさんの人とつながり子どもたちへと素敵な縁につながることを目指してこられたことが、ダイレクトに伝わってきます。

## 《印刷部門 小学校の部》

### 金賞「ANASHI」 泉大津市立穴師小学校 PTA

#### ちょうどいい PTA ってどんなやろ？

2年連続金賞受賞&泉大津市PTA協議会金賞とアベック受賞です。Web部門でも銀賞受賞しており、スローガンの「ちょうどいいPTA」は、今年のパワーワードかもしれません。ビジュアルと読み物重視の印刷物の広報紙とPTA活動の情報に特化したWeb版に役割分担しています。「橋田先生になんやかんやきいてみた」—保健の先生へのインタビューでは、「保健の先生になろうと思ったきっかけは?」「保健の先生になりたい場合は、まず看護学校に行くんですか?」「実際に保健の先生になったあとはどうですか?」と、畳みかけてくる感じが前のめりの熱量とスピード感を示しています。親近感溢れる読み応えのある特集記事が素晴らしい。広報紙改善を中心としたPTAの改革の実践は続きます。きちんと取材をして自前の記事を書く姿勢が貫かれて好印象です。

### 銀賞「Theひがしのせ Times」 豊能町立東能勢小中学校 PTA

#### 学校はエンタメだ 分離型小中一貫教育校開校

小学校校舎に前期学部(1~4年生)、中学校校舎に中・後期学部(5~7年生、8・9年生)が通学する小中一貫教育校が、いよいよ開校しました。コミュニティスクールとしてのスタートでもあります。前身の「ひがしのせ」(東能勢小学校PTA)から引き続き発信力・編集力は高いです。これも引き継がれた企画「全校児童生徒185名の仲間たち!」は、表情豊かな集合写真と先生方の一言メッセージによるクラス紹介。明るくて楽しくて、子どもたちのエネルギーが伝わってくるとともに先生方の覚悟というか希望が込められた紙面です。「ニュース&トピックス」「あったか☆ふれあい☆東能勢」「とよの未来科～東能勢style～」と、子どもたちの様子・学校の取り組み・地域の活動をしっかりと伝えています。自前の記事をしっかり書くことが広報紙づくりの当たり前になっていて、敬服します。読み応えのある特集がいくつもあり、本当に素敵です。

### 銅賞「高石新聞」 高石市立高石小学校 PTA

#### 創立145周年 著名な卒業生と先生の紹介

高石で最初に誕生した最も歴史ある小学校—伸びゆく高石小学校。145年の歩み(年表)と「著名な卒業生と先生」のコラムがしっかりとリンクして、読み応えのあるページに仕上がっています。Jリーグチェアマン・日本サッカー協会会長(キャプテン)等を歴任した文化功労者の川淵三郎氏が昭和22年発足の児童会初代会長であり、恩師が児童文化研究家として著名な吉岡佐(たすく)さんというめぐり合わせには驚きました。個性派俳優の佐藤蛾次郎さんも本校の卒業生です。人物を中心としたエピソードで学校の歩みを語るユニークな特集記事です。読み物としても白眉の出来だと思います。紙面では、警備員さんや図書ボランティアの皆さんとの紹介、見守り隊感謝式の報告など子どもたちを見守り支援する様々な人々の活動を丁寧に取り上げていて、地に足の着いた編集ぶりで好印象でした。

## デザイン賞「せんいち」 吹田市立千里第一小学校 PTA

### 写真が秀逸 デザインが斬新 ドローンを駆使

第 420 号のフロントページ。「志一人と人の輪をつないで」の見出しのもと校長先生・PTA 会長さん・教頭先生のとっても魅力的な表情の写真が並んでいます。さりげない目線の外し方、執務中の自然なスナップ、ややあおり気味のアングルーといった具合で工夫の跡が見えます。手練れの撮影者ですね。教職員紹介や PTA 役員・委員紹介の写真も明るく楽しい雰囲気で素晴らしい。学年ごとに考えられたポーズも本当にキュートです。でも読者に興味を持ってみてもらえるようにとの工夫は、まだここから。コミック誌のようにコマ割り風にレイアウトした運動会写真にやられてしまいました。ちょっとぴりアメリカンコミックっぽい吹き出しに書かれたキャプションも適切です。最後の工夫は、卒業記念号。6年生全員で作った「千一」の一文字をドローン撮影。様々な工夫やお楽しみにあふれたワクワクする紙面です。

## ベストカラーリング賞「さぐらいだに」 豊中市立桜井谷小学校 PTA

### フロントページや行事の写真が美しい

大人気のアンケートシリーズ。「携帯電話について いろいろ教えて!」「朝ご飯アンケート」「宿題・家庭学習について いろいろ教えて!」—毎回保護者の悩みにこたえるアンケート調査を工夫されています。ポイントを絞って、本当に知りたいことに迫っているのが魅力的です。「田んぼのボランティア」「子どもの安全見守り隊」「放課後の子どもの居場所づくり」etc. の取り組みを粘り強く丁寧に紹介しています。ベストカラーリングの意味は、フロントページや行事の写真の美しさ。学年ごとにテーマカラーを決めて、落ち着いた色調でまとめています。紙面が本当に美しいです。創立 150 周年記念事業に関連してビオトープの会やロゴデザインを掲載するなど一翼を担っています。PTA 広報紙の取り組みで様々な情報共有されていて頼もしいです。

## 大阪 Lover 賞「広報 のだ」 堺市立野田小学校 PTA

### 府下の施設が大きくレイアウト

長居公園・自然史博物館、海遊館、大阪国際空港、柏原市（大和川付け替え、ぶどう園）、府立少年自然の家など遠足・社会見学・校外学習・林間学校で訪れた府下の施設が大きくレイアウトされた紙面が特徴です。部門賞の「大阪 Lover」にはそんな意味が込められています。「そこで学びの楽しさ、児童のはつらつとした笑顔・元気さを伝えたかった」（応募用紙より）ねらいは十分達せられたと思います。給食試食会の紙面でも意図的に大きさを変えてメリハリをつけた写真の工夫や参加者の様子もよくわかる楽しい雰囲気の紙面づくりが成功しています。卒業記念特集の寄せ書きも子どもたちを取り巻くおとなとの温かいまなざしを感じる力のこもった紙面になっています。全体を通して、とっても美しい調和の取れた仕上がりとなっています。

## 《印刷部門 中学校の部》

### 金賞「まほろば」 和泉市立南池田中学校 PTA

#### 大人も子どもも楽しめる PTA 活動

3年連続金賞受賞の快挙です。青葉はつが野との最初のアベック受賞から6年。広報紙の改革を中心とした大人も子どもも楽しめるPTA活動を構築する試みが続けられてきました。年5回発行で7月・12月・2月のレギュラー号及び「先生紹介特別号」と南池田PTA本部メンバーが贈る「PTAの活動と役割のご紹介」で構成。貫かれているのは、「楽しんで作りたい」「自分たちも読みたいものを作りたい」。「木村会長ってこんな人！」のコーナーでは、4人の副会長さんと肩を組んでピースサインで満面の笑みの木村会長。副会長さんがそれぞれ綴った、「斬新奇抜でとにかくぶっ飛んでいる！誰が見ても一目でわかる存在」「少年ジャンプの主人公を地で行く、心優しく熱い方でありながら、繊細で乙女。知れば知るほど奥深い魅力的な人物です」が素晴らしい。こんな編集センス、大好きです。

### 銀賞「丘からの風」 箕面市立彩都の丘学園 PTA

#### カラフルな個性が輝きますように

発信力・編集力は高いです。表紙・裏表紙には、200枚の写真を使ったモザイクアートがカラフルに本誌を彩っています。写真は、宿泊行事や校外学習、クラブ活動や普段の授業風景—子どもたちの1年間の思い出が詰まっています。彩都の丘学園は2011年4月に開校した、大阪府で2校目の施設一体型小中一貫校です。大阪モノレール彩都西駅の西側は2011年3月に街開きが行なわれ、最初に建設された公共施設が彩都の丘学園です。現在、府下各地で展開されている義務教育学校・小中一貫教育の先駆けといえます。すべての学年のページにそれぞれの行事や取り組みがコンパクトにまとめられています。子どもたちの空気感を生かした写真が満載です。学園のブログに掲載されている写真を活用して負担感と二重チェックの手間をなくしています。

### 銅賞「吹田一中」 吹田市立第一中学校 PTA

#### 非日常で生まれたつながりを 日常でも繋げて

チャレンジングな紙面です。例年より1回多い年間4号発行されました。どの号も表紙に工夫がこらされています。年度1号目の新任校長先生の大きくレイアウトされた写真が魅力的です。アンケートとの合わせ技で、人柄紹介に成功しています。2号目は、大自然の中のアクティビティ。迫力ある写真で、息をのみました。熟練の技だと思います。「机の上では得られない貴重な体験 非日常で生まれたつながりを 日常でも繋げていってほしい」—表紙に添えられた文章が、修学旅行や校外学習に寄せる思いをしっかりと表現しています。いくつもの行事の中止を余儀なくされてきた3年生が大自然の中での活動を満喫する様子が余すところなく伝えられていて好印象です。卒業記念号は、1面A4版6ページの大きさです。ワイドな紙面で大変迫力がありました。Good Jobと申し上げたいと思います。

## スタイリッシュ賞「峰塚タイムズ」 羽曳野市立峰塚中学校 PTA

### 大人だって苦手なものがたくさんある

スタイリッシュでスピード感あふれる紙面です。年度1号目の表紙は、校長先生とPTA会長さんが苦手な英語と数学の教科書を手にとっても苦い顔。職員紹介のページの質問①苦手な教科とその理由は?②気持ちを上げるモノ・コトを教えて?にリンクしたページです。「大人だって苦手なものがたくさんある。多感な年頃の生徒たちにエールを送るつもりで作成しました」(応募用紙のアピール)とのことです。卒業記念特集では、先生方が大きなフレームに入れたそれぞれのメッセージを掲げています。メッセージの内容とともに文字や表情・しぐさが個性的。手書きのぬくもりが感じられ、先生方の思いが伝わる紙面になりました。子ども達を取り巻く大人の餞(はなむけ)の気持ちが表れていて素敵です。

## ベストネーミング賞「グータッチ」 堺市立庭代台中学校 PTA

### 昨年はフランス語でした 写真の使い方が秀逸

庭代台の特集で毎回楽しみにしているのが、同じ構図・メンバーで撮る Then&Now です。入学直後と卒業直前に撮影するグループ写真。「みんな大人びました」「入学時は制服に着られているようでしたが、今ではすっかり着こなしています」のキャプションが納得です。庭代台はコンクール入賞常連校ですが、「写真が美しい、写真の扱いが上手」と感じてきました。「今年の広報紙のTITLEは『グータッチ』です。保護者と先生と生徒が気軽に『グータッチ』できるような関係を築けるよう、子ども達をサポートし見守っていきたいと思います」(117号 p12)。職員紹介のページで「先生のイチオシポイント!」と題してペアになった先生方がグータッチやひじタッチしながらお互いを紹介する企画が秀逸です。やはり写真の美しい紙面です。

## レイアウト賞「ふれあい三中」 摂津市立第三中学校 PTA

### 見やすい紙面 抜群の訴求力

校長先生へのインタビューでしっかり人柄紹介。人生を変えた本や映画を紹介してもらう先生紹介がユニークです。「本や映画に触れたとき、知識の広がりや心が動かされる瞬間があるものです。先生が体感した『人生が変わったバイブルとは?』」(2022年夏号 p4)明快なレイアウトが秀逸。入学式や運動会でのコマ割りのような大胆な写真の配置がスピード感を感じさせます。やはりレイアウトに工夫があります。卒業記念号は、「音」をテーマに編集されました。表紙のキャプションは、「僕らが毎日見ていた景色には いつも音楽が流れてた」。「先生方からは『卒業生に聴いてほしい卒業ソング』を集め、楽曲の1フレーズを『贈る言葉』として紹介しています」。(2022年度冬号 p1) 全体を通して訴える力は強いです。

## 《印刷部門 PTA 協議会の部》

### 金賞「市P広報誌はじめました」 泉大津市PTA協議会

#### ちょうどいいPTAをめざして 教育長と対談

「一人ではできないことを協力してやってみる それが PTA」。「保護者と先生の交流が‘子どもたちの楽しい’になる」—1.PTAとは？ 2.どんな活動をしているの？ 3.PTAの魅力 4.PTAってどうして必要なの？ 伝えたいことが明確です。「これまでのやり方にとらわれず無理せずできる楽しい活動を!!」の惹句が、とつても効いています。だからこそ「ちょうどいいPTAをめざして」なのでしょう。「市Pメンバーが1年間活動してみて辿り着いた‘ちょうどいいPTA’の秘訣をお伝えします」という語り口が、魅力的です。①できる人ができることを②気軽に話してみる③SNSを活用する④「ありがとう」を大切に⑤やるなら、楽しく!—提起の内容も具体的で、適切です。教育長との対談も親しみ易く、コミュニティスクールの紹介や役員選出方法のフォーマットの提案などもわかりやすく丁寧に身近な例を示しています。本当に素晴らしい。Good Jobです。

### 銀賞「和泉～PTAだより」 和泉市PTA協議会

#### 四年連続入賞 フロントページのイラスト・会長似顔絵に存在感

和泉市は、PTA協議会の部・中学校の部の2部門で受賞。和泉市PTA協議会は、3年連続金賞の後の銀賞受賞です。B4縦版12ページのうち10ページが各中学校区PTAの紹介記事です。「各校区で工夫された活動が紹介され、各校園の情報交換の場となる紙面」となるよう各中学校区の広報委員の代表が原稿を持ち寄っています。全ページカラー印刷も定着してきました。特に信太中学校美術部作成による表紙のイラストは、登下校見守りの場面が親しみやすいタッチで描かれています。PTA協議会会長の似顔絵も存在感を放っています。「自身の学校園でPTA役員を経験したことがない保護者にも単位PTA・和泉市PTA協議会の活動を知ってもらうきっかけづくりになれば」という思いのこもった紙面です。

### 銅賞「つくし」 貝塚市PTA協議会

#### 親しみやすい「つくし」座談会記事も秀逸

一昨年銀賞・昨年銅賞に続く3年連続受賞。柔らかな印象の題号通り、優しく親しみやすい紙面です。それぞれの学校園の紹介記事が丁寧につづられ、特色や課題が紹介されています。「笑顔と希望にあふれた学校」「仲間との絆が深まった修学旅行」「みんなに愛され遊びの中でグングン育つ」—工夫された見出しが記事を引き立たせています。学校園代表の先生方を交えたPTA座談会では、「マスク生活 子どもへの影響は？」がテーマに。今日的で悩ましい課題に正面から向き合っておられ、感覚の鋭さに感心しました。一マスクは子どもの成長に悪影響があるの？という問い合わせに対して「悪い影響はある」「でも、良い面もある」、「脱マスクに向けて」と、きちんとまとめられています。読者に判断する材料を提供するという広報紙の基本に忠実な編集だと思います。

## 《WEB 部門》

### 金賞 東大阪市立長堂小学校 PTA

#### 運営委員会の議事録「ちょうどう PTA だより」

5月の運営委員会報告、夏イベント号、冬イベント号、3月の年間振り返りが掲載。学校行事とともにPTA がどのような関わり方をして、どのような活動をしているかを中心に保護者に周知することを目的にされています。「自らが参加して行事を作り上げた意識を持つてもらえるよう」広報活動を続けておられます。

### 銀賞 泉大津市立穴師小学校 PTA

#### 広報紙との役割分担を明確に

印刷物の広報紙との役割分担をはっきりさせています。PTA 活動自体に関する詳しい情報は Web 版の PTA だよりに掲載されています。印刷物では載せきれない細かな情報もしっかり載せることで PTA の透明性を伝えられるよう工夫されています。次年度 PTA 役員委員決定会議の LIVE 感あふれる記事もあります。

### 銅賞 枚方市立五常小学校 PTA

#### ごじよっちニュース かわら版

PTA 委員会活動報告書がリニューアル。PTA 本部から広報に業務移行し、カラー化して写真も初導入して生まれ変わりました。各委員会の詳細な活動報告が生き生きとした写真も添えて掲載されています。教職員や保護者からも好評で、新入生保護者へも資料として配信されるなど成果が上がっています。

# 大阪府 PTA 協議会

## 広報紙コンクール《ワンポイントアドバイス》&広報紙講習会資料

2023/5/13 Sat. 難波市民学習センター 講堂

広報紙アドバイザー 立石 隆則

### 1. 大阪府 PTA 協議会主催の広報紙コンクールについて《意義》

- ✓ 「啓発と普及」「交流重視」・・・お互いの取り組みを持ち寄り、学習する
- ✓ 府 PTA 協議会がお勧めする広報紙作品を明らかにし PTA 活動としての広報委員会活動を啓発し普及する。よって選出される作品は大阪府 PTA 協議会一押し、お勧めの作品となります。
- ✓ 日本 PTA 全国協議会主催 小中学校広報紙コンクール都道府県予選を兼ねています。

### 2. 優れた紙面から学ぶ

#### 1. 報道性に優れている紙面

- 学校・子どものことが良く分かる、PTA の動き・様子がきちんとつかめる
- ・穴師小学校
- ・東能勢小中学校

#### 2. 特集の企画が優れている紙面

- PTA 会員の興味や関心に合致している
- ・庭代台中学校
- ・桜井谷小学校

#### 3. 編集面の習熟・工夫があり、バラエティーに富んでいる紙面

- 読みやすく、見やすく、分かりやすい
- ・吹田第一中学校

#### 4. 親近感・充実感がある紙面

- 主観・偏見を排していく、親しみやすく読みごたえがある
- ・高石小学校

#### 5. 情報紙としての性格を併せ持っている紙面

- 役に立つ広報紙、保存しておきたい
- ・彩都の丘学園

#### 6. PTA の機関紙としての役割を担っている紙面

- 保護者（PTA 会員）を広く強力に組織する
- ・南池田中学校

### 3. PTA 広報紙の到達点

- ・泉大津市立穴師小学校 PTA

- ・和泉市立南池田中学校 PTA

### 4.PTA 広報紙の現状—打開のカギは

#### 《広報紙の現状》

- ・「広報紙は、子どもたちと親と学校、地域という最もつなぎにくい関係をつなぎます。また、文字と写真、イラスト、レイアウトという手作りの技術でそれらを表現し、その上、成果物（広報紙）としばし対峙する喜びを与えてくれます。人間らしい交流を体験させてくれる癒しの存在。ますますなくてはならな

い媒体なのです」（広報紙コンクール選定委員フリージャーナリスト 細見 三英子先生）

・地域ごと学校ごとの特色を反映させることは PTA 広報紙作成の醍醐味です。

・一方、広報紙の「二極分化」や学年進行について PTA 活動は「仕事がないことが売りになる」傾向もあります。本コンクールへの出品数の減少傾向を見ても、PTA 活動としての広報委員会に課題があると思われますし、コロナ禍での行事が抑制される中、報告型広報紙の行き詰まりが鮮明になった一面もあるのではないかでしょうか。

・この点についても細見先生は、「広報紙作りも、みんなが頻繁には集まれないという状況の中で試行錯誤が始まりました。中でも励まされたのは、次のような担当者の決意でした。『大切な人たちに思いを伝えたい、の一心で作ったら、従来より発行回数が増えた』とか、『A4 判での発行を試したら、けっこう手軽で早く、広報紙がシリーズ化できた』とか、『安心を届けるというスローガンを掲げて制作にあたると、広報紙の目的や内容がシャープになったように思う』という声が多くありました。必要は発明の母、あるいはピンチはチャンス、とはこういうことでしょうか。さて、ともすれば行事や運動会の写真に偏りがちな紙面の中で、あえて毎号、心にしみるアンケートを実施し、結果を円グラフにして読ませる紙面を作った小学校は見事でした」と昨年（令和 3 年度）の広報紙コンクール講評で触れられています。

## 《打開のカギ》

1. 「広報委員は読者の代表」 ⇒自分が読者として読みたいものを追求。

2. 前年通り、今まで通りをやめる。

⇒例えば、挨拶文をインタビューに変え、発行時期と回数を見直す。運動会にはドキュメンタリー風の記事を。新しい企画やチャレンジで、報道性・企画性・親近感（親しみやすさ）を高める。挨拶・報告中心の紙面、依頼原稿ばかりの紙面から脱却して特集記事を積極的に。→PTA 会員の興味関心に寄り添うことに。

→ 読みやすく、読みたいものを 手作りで

3. 課題は「一生懸命作っていることが伝わる表現力」

⇒楽しい広報委員会を組織。委員さん一人一人の持ち味を引き出す取り組みを。

（ICT の活用に堪能な人、イラストが得意・絵心のある人、顔が広く社交的な人、様々な持ち味を發揮してもらうことが肝要）

⇒見出し・記事・写真のバランス 表現力を高めましょう。写真をたくさん載せるだけでは紙面が平板に →紙面の変化に重点を置く。

→ 記事を象徴する見出しを考え抜き、象徴する 1 枚の写真を選びぬく

## 新聞の編集レイアウトの基本

### ①全体をイメージしバランスよく

集めた記事を紙面に割りつけることを編集レイアウトと言います。新聞づくりは、最初に紙面全体の出来上がりのイメージがなければうまくいきません。

文字ばかりという印象にならずに読みやすくする本文文字量は、紙面の 50%~60%程度。題字と題字下、

見出し、写真、図表、カットまんが、ケイ線などが結構なスペースを占めます。新聞は速読が基本ですから、文字情報量と見栄えのバランスが大切です。

縦書きの新聞は、右上から読み始めるので、1ページ目の右上がトップ記事。編集者が一番大切だと判断した記事をトップに置きます。2番手はトップに続く中央から左下へ向かう記事。3番手は左上、4番手は右下となります。

## ②新聞は3度読ませる

読者が紙面を手にしたとき、真っ先に視線に飛び込んでくるのが見出しだけです。見出しから、何が書いてあるのかを知り、読んでみたいなど関心を持ちます。見出し文字は目立つよう、スペースを取って大きくし、書体（フォント）、線の太さ、位置取りなどをさまざまに工夫します。

次に読者はリード（前文）を読んで記事全体の概略、要約、結論を知ります。トップ記事や長い記事につけすると効果的です。

一般に、リードには「通し組み」という技法を使います。たとえば1段が11字詰めの基本組みなら2段以上を取り、字詰めを増やして書きます。さらに天地左右に空きを設けたり、線で囲んだり、書体を変えるなどして、本文記事と区別します。

読者は見出しおよびリードに導入されて、さらに本文を読み、詳しい内容を知ります。

## ③レイアウトは押さえて流す

新聞のレイアウトは「隅から、端から、下からつくる」のが基本です。連続もの、連載など定位置に置くものの、四角にまとめたハコもの（箱物）を周辺に置き、最後に右上から左下にトップ記事を流していきます。このような新聞レイアウトの基本的な方法を「押さえて流す」と言います。

ポイントとなるハコものには主に、タタミとカコミがあります。

## 見出しづけは編集の真髄

ふだん新聞を読むとき、何気なく見出しから読み始めます。大きい文字で書体もいろいろ、背景に模様がつけていたりと、紙面上でたいへん目立つ存在ですから当然でしょう。見出しだけ読んで、本文を全部読んだ気になってしまふことさえあります。

読者の視線と関心を引き付け、読む気を起こさせ、本文の内容を知らせる——見出しの果たす役割は絶大です。

紙面を作る側からすれば、見出しづけは、読まれる紙面に仕上げられるかどうかの分かれ目でもあり、編集作業の真髄と言ってもいいほどです。

### ①記事がそこから始まる目印

本来、見出しひてどのような役割があるのでしょうか。

まず第1に見出しひて、そこに記事があることの目印だということです。読者は見出しひてある場所から新しい記事が始まることを知ります。もし見出しひてなかったら、どこからどこまでが1本の記事なのかわかりません。つまり、どんなに短い記事にも見出しひつけるのが鉄則です。

### ②内容を凝縮し読む気にさせる

第2に、記事の内容を要約し、一目でわかる、読む気を起こさせる、という役割です。見出しひて読み手の関心を引きつけなかったら、せっかくいい記事でも読まれない可能性があります。その記事で読者に伝えたい最も重要なポイントを短い言葉で書いたのが見出しひです。

## 見出しひつけ方

- ①名称よりも内容
- ②複数の見出しでメリハリつけて
- ③基本形をもとに自由に表現

#### ○主（本）見出し

記事の最も重要な内容、要素をズバリ言い切る。最低限これ1本でも成り立つ（7～9文字が適当とされる）。  
○柱見出し

「〇〇〇について」のような全体の概要、テーマ、表題を示すもの（10字前後）。柱見出し1本だけはそ  
っけない。

#### ○肩見出し

主見出しの肩にかけるようにつけ、記事内容の特色を表現（8字前後）。

#### ○ソデ（脇）見出し

主見出しの次にくるもので、副次的要素を表現する（9～11字）。

#### ○小見出し

本文中に本文文字より少し多きく太い文字で入れる（10字前後）。とくに長い記事の場合、読んでもらう  
には欠かせない。

#### ④短く、わかりやすく

#### ⑤客観見出しと主観見出し

#### 見出しの基本形



チドリにすると  
優しいイメージ

字数そろえて  
2行見出しは

## 表情や動きのある写真に

写真1枚が伝える情報の豊かさと臨場感は、100行の文章よりもよほど説得力があります。編集者は、紙面企画の段階から、どんな写真が効果的に相応しいか考えましょう。

人物写真では、表情や動きをとらえられるよう、できるだけ近づいて撮ります。会議や集会の写真は動きがないので、参加者が笑ったり、拍手をしているタイミングを狙いましょう（難しいのですが）。

頭の部分はカットすることもありますが、あごの部分を切り取ると誰の顔かわからなくなってしまいます。「頭は切ってもアゴは切るな」が原則です。

カメラマンはどんな紙面企画の写真なのかを意識しながらも、どんな紙面にも使えるように、さまざまな場面、角度から撮っておきましょう。

## 必ず写真説明を載せる

紙面レイアウトではまず、写真を配置してから記事を流します。

写真を何枚も載せる場合、どれも同じ大きさにするのではなくメリハリをつけた方が効果的です。メインの写真は大きく、左上または中央部に配置し、他は小さめにバランスよく置きます。大きな写真を下に置くと、重たい印象になります。

伝えたいテーマをより鮮明にするために、ときには写真をトリミングして必要な部分だけクローズアップします。

写真には写真説明をつけるのが鉄則です。何の場面か、誰が写っているのか、さらには本文にない補足説明を書くと、より多くの情報が伝わり、充実した紙面になります。実は、見出しと同じくらいよく読まれるのが写真説明なのです。

## 埋めぐさカットはダメ

イラスト、カット、漫画も目立つ存在です。写真のようなリアルなインパクトはないものの、紙面を柔らかくして、親近感を持ってもらえます。

レイアウトはできるだけ上部に、見出しと組み合わせると効果的です。記事の最後、空いたスペースに埋めぐさのように使うのはよくありません。記事の末尾を目立たせるのは逆効果で、最初の見出しに視線が集まるようにしましょう。

## 向きが肝心

写真やカットのレイアウトでは向きが肝心です。向いている方向が紙面の中央（カコミ記事ならカコミの中央）に向くように注意しましょう。紙面の右端に置くなら左向きの写真、左端に置くなら右向きの写真にします。その逆に紙面からそっぽを向いてしまうと、散漫な印象を与えてしまいます。

## ※参考文献

- ・全国小・中学校PTA広報紙コンクール優秀広報紙集 日本PTA全国協議会  
→大阪府PTA協議会へご照会ください。
- ・朝日新聞の用語の手引き 朝日新聞出版 朝日新聞社
- ・なるほどデザイン MdN コーポレーション 筒井美希
- ・活版印刷三日月堂 ポプラ文庫 ほしおさなえ
- ・隠蔽捜査9.5「審議官」 新潮社 今野敏

**【広報紙作成上のどんなんことでもご相談ください】**

◎お問い合わせはどんなんことでも・・・大阪府PTA協議会事務局

〒534-0025 大阪市都島区片町2-2-40 大發ビル301

TEL: 06-6949-8300 / FAX: 06-6949-8301 e-mail: tunagaru.fu.p@osaka-pta.jpへどうぞ。

◎立石隆則に直接ご連絡くださる場合は・・・e-mail:ritsuyan0225@gmail.comへメールください。  
(お返事しますのでドメイン拒否設定を解除しておいてください)

※編集上の困りごとのご相談をお受けします。広報紙全般に関するアドバイスも行います。お気軽にお問い合わせください。学校や地域に出向いての講習会も行います。ぜひご相談ください。

# 大阪府PTA

大阪府PTAの公式SNS

やられもしないし、やりかえしもしない

やりがいの  
倍返しだ

いったいどんな活動をしているのか！？  
大阪府PTAークセ強めな人の集まり？—  
ちょっと覗いてみませんか？

どこで見れるの？

《方法①》

大阪府PTA協議会ホームページの  
府P公式SNSをポチッとしてください。  
Facebook・YouTube・Twitter,  
あなたのお好きなSNSにレッツアクセス！

大阪府PTA協議会 

PTAには  
仲間がいる

《方法②》  
右記QRコードから  
直接アクセス！



府P公式Facebook

府P公式YouTube

府P公式Twitter

ここだけの話

大阪のおっちゃんとおばちゃんがなんとかバズろうと試行錯誤の真中です。応援よろしくお願いします！



大阪府PTAキャラクター「ピタマル」

**大阪府PTA協議会 事務局**

(開局時間:平日 10時~16時)

〒534-0025

大阪市都島区片町 2-2-40 大発ビル 301

TEL:06-6949-8300 FAX:06-6949-8301

E-mail:tunagaru.fu.p@osaka-ptा.jp



大阪府PTA協議会ホームページ  
<https://www.osaka-ptा.jp/>